

鉄骨造外壁部の振れ止め設置方法の改善 (無溶接振れ止め工法)

～ 高さ6mにおける軽量下地の振れ止め設置方法の改善～

東北支店真栄会 仕上げ部会

株式会社 丸 西



対象現場

株式会社 丸 西

No 1

工事概要

- 主要工事 工場内 添壁軽量鉄骨下地及び化粧石膏ボード貼
- 壁数量 2,100m²



対象現場写真

株式会社 丸 西

No 2





従来の工法

- フカシ軽量下地の場合、従来は溶接で補強の控えを取っていた。
 - ①工場が稼働中で、しかも製紙工事のため溶接作業は火災予防上適切ではないと判断した。
 - ②高所作業のため溶接機の移動、設置が困難である。
 - ③工場内に台車等が往来しているため地這い配線が障害となる。

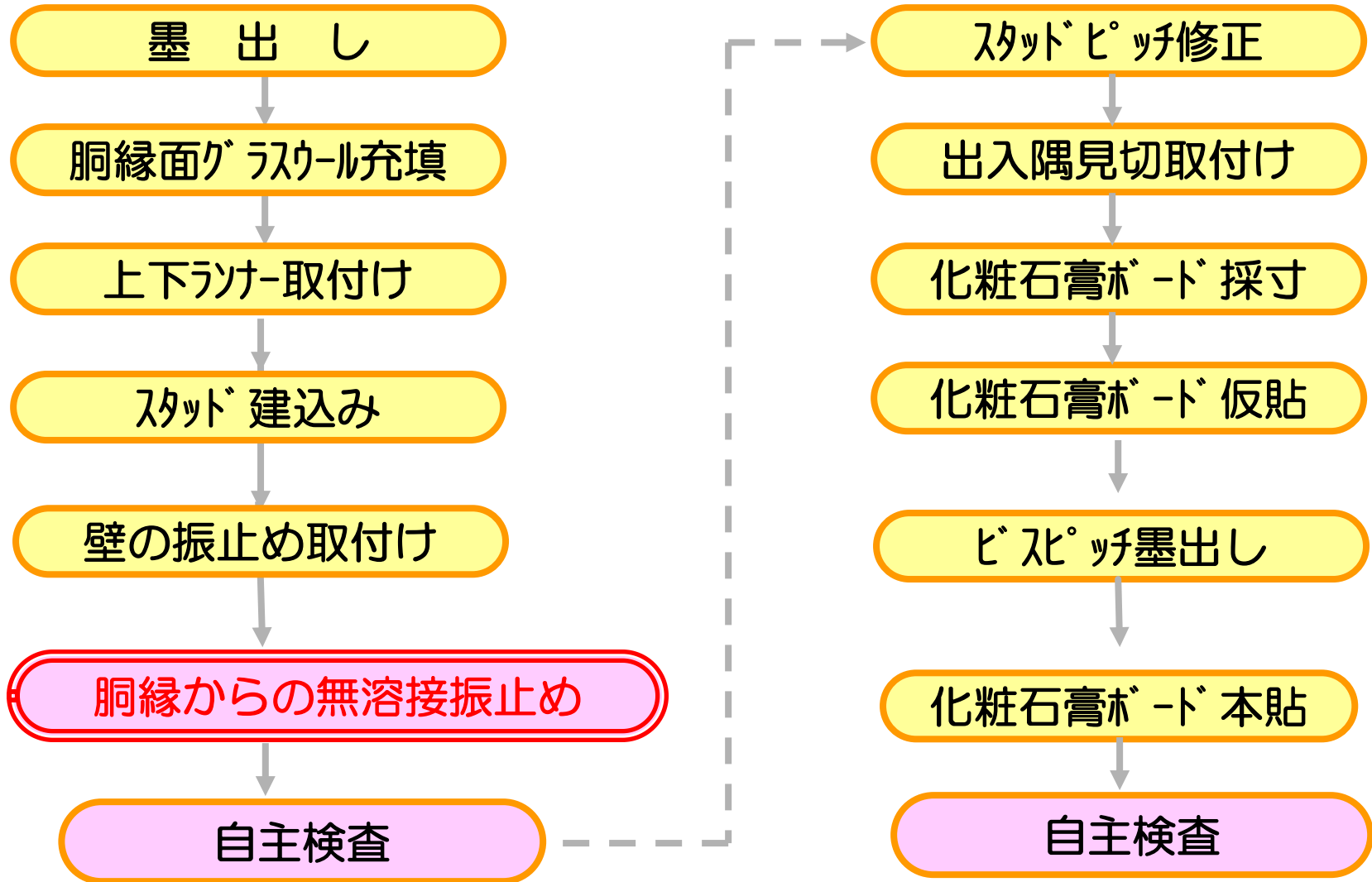
以上の問題を改善するため

鉄骨造外壁部の振れ止め設置方法の改善
(無溶接振れ止め工法)

をテーマとしました



外壁面の壁の施工フロー



壁面設置状況



横ピッチ900・立ピッチ1200



実施概要②

胴縁ビス止め状況





実施概要③

株式会社 丸 西

No 7

振れ止め曲げ加工状況



- ① 火気を使用しないため、火災事故の心配が無くなり、既存の資機材移動・養生を削減出来た。
- ② 電動ドリルのみで作業が出来るため効率が上がった。
- ③ 控えの胴縁さえあれば、あらゆる方向から補強する事が可能となった。
- ④ 溶接機を設置する手間が省け、地這い配線も解消された。
- ⑤ 振れ止め材は通常天井材に使用している材料のため直ぐに入手可能。



- ① 無溶接での振れ止め材取り付けを実施した事により、安全と工程の両面で成果を上げる事が出来た。
- ② 今後も出来る限り溶接作業は避け、無溶接工法で進めて行きたい。
- ③ 今後は新築現場でもこの工法を取り入れ安全と効率化を図って行きたい。